

津高同窓会報

発行所 津市刑部高等学校内
 三重大津同窓会事務所
 印刷所 津市花

会報発刊に寄せて

同窓会会長

藤田 廣



梅の花の咲き乱れ、櫻都と香の
 流れる此の好春に、会員の皆さん
 の絶大なる御協力によって新校舎
 が設立され、更に同窓会報が発刊
 された事は感謝感激に堪えませ
 ん厚くお礼を申し上げます。

聞いて物珍らしく思いました。然
 るに私共明治ッ子も、明治は遠く
 なりにけり、と訝われるようにな
 りました。
 明治も末となれば、社会は進ん
 でいきましたが、其の頃の私の郷里
 の学校は古ぼけた小さいものであ
 りました。其の小学校から、三重
 県最高の津の一中へ進学を志した
 のでありますから、当時としては
 大変でありました。一中は全県か
 ら優秀なる生徒が集ったので、彼

の三筋の白練の制服こそ少年のあ
 こがれでありました。
 愈々入学の日となって、あの古
 色蒼然たる白壁の校舎に足を踏み
 入れた時は感慨無量でありました。
 其の頃村田河野の端端には師範
 や中学の予備校たる私立勸業館
 がありまして、其処から入学した
 学友は既に英語を習得して、
 私共初心者には強敵でありました
 亦亦願や實正から来た生徒は都会
 の設備が完全である学校の出身で

ある為程度が高く、私共の及びも
 つかぬ相手でありました。これら
 学友との競争を迫るにはきび
 しい日々の勉強が必要でありまし
 た。
 日々の勉強が激しい上に進学準
 備があつて彼の有名ながまん会が
 生まれた程であります。
 今私の脳裡に走馬燈の様に恩師
 学友、校舎等の面影が写り交つて
 行きますが、強く印象に残るもの
 は身心共に目覚しく生長発展する

願ひますに、私がこの津の中学
 校へ入学した頃は明治の末期で、
 まだ天保生れの人々を児受けたも
 のでありました。其の都度天保と

想い起しますに、「昨年暮以来
 火災の復興に、校舎の再建に、資
 付金の募集に、はては校内秩序の
 確保に、その上炎天下の思害しい
 バイブハウスと、暗くてよれた
 空気の閉じ切り体育館での授業の
 悪影響など、傷心と不安に閉ざさ
 れた津高高等学校が、市川校長を初
 め職員一同の再起への堅い決意と
 藤田同窓会長初年度幹事の方々の
 並々ならぬ資金への情熱、それ
 に私もPTAの協力という三つ
 の力の結晶によって、僅か一ヶ年
 余り経過した今日、この思い出の
 刑部の地に太陽に輝く美しい白壁
 の校舎が再現しました。
 再びと希望に輝く二八〇〇の種、
 はつらつと、潮のようにおし寄せ

秩序正しく律動する男女生徒の姿
 およそ私共の世代には想像も出来
 なかった幸福感と感謝の心が校内
 に満ちみちています。同窓の皆様
 ほんとうに有難うございました。
 而もこのたび、この校舎の再建
 を機に津高同窓会報が発刊され
 る事となりました。
 願ひますに、津高には明治十三
 年の創立という津中、一中以来古
 い歴史と立派な伝統が、学界に経

清界に、政界に、或は地域社会
 二万余名の卒業生を送り、幾多の
 貢献を致しておりますが、残念な
 りに今日まで津中、県立高女、津
 を一丸とした同窓生諸君のつな
 りに欠けるところがございました
 は、否定できません。しかしこ
 れからはこの会報によって、お互
 若かりし時のありし日も憶ひ、
 友の活動消息も知り、つづつ後
 の指針ともなり或は次の世代を



PTA会長

倉田 文治

発行を祝して

学 校 長

市川 一郎



校舎の竣工を記念して同窓会報
 が発刊されます。昭和三十五年八
 月に、陳川・三浦・津高の三つ
 の同窓会が一つに統合されてから
 の課題であったこの会報の発行と
 名簿の刊行が、母校の火災、一復

興一筆金が契機になって、生れ出
 ます。
 何よりも先づ、今回の復興工事
 に寄せられました同窓各位の御支
 援に深甚の御礼を申述べます。全
 く、会長さん初め役員の方々は、
 校舎の復興、資金の確保を我がこ
 とのようにお考え下さいましてい
 足しげく学校へお立寄りいただき、
 こまごまとした行き届いた御手配
 をしていただき、私はもとより
 全職員を感激させていただきまし
 た。竣工式にしても自分達は事實
 にはあつた、些かの記念品をも
 頂戴する訳には行かない、その分
 だけでも、後輩の為に残すべきだ
 と言われて、私達を面くらわして
 下さいました。資金の方も今後市
 町村その他からおよせいただく分
 を併せますと、ほぼ目標額に達す
 ることになりそうで、全く津高な
 らでは出来ないと、他校の関
 係者を頼らなければなりません。
 今回の火災は全く申訳ないこと
 でありましたが、一方ではい、副
 産物をいくつも生み出しました。
 この竣工式にめぐりあわせた在
 校生並に引続く後輩たちは、多数
 の有力な先輩を持つ有難さを肌身
 にしみて感じたことでありまし

学校も従来はともすれば同窓会
 に対して疎遠でありました。
 これからは、新校舎内に資料室の
 名で同窓会関係の一事も作りまし
 たし、校内幹事の手によって、通
 信連絡、名簿訂正の仕事も、継続
 的に校務の一環として続けて行く
 体制も作りました。
 古河の校舎時代の卒業生からは
 刑部の校地校舎になじみのないこ
 ととよくききましたので、この際
 古河の地に放置されていた正門の

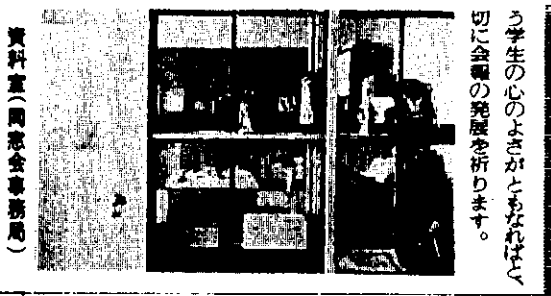
石垣をひきとりまして、新校舎
 周辺の造園の材料にうまくとり
 こんでいただきます。一度御覧
 いただきたいと思ひますが、神
 石、や藤田川の名石と調和して
 それは兎事なものです。
 さて、この会報もこれからはけ
 期的に発行することとなります
 で、こゝに年度幹事さんの組織
 会員相互の連絡が大事になって
 ます。そんな同窓会の組織すく
 くにこの会報が表裏の関係に立っ
 ています。会報の発刊すること
 同窓会の組織発展と二つことな
 考えますので、益々両者の発展
 折ってやみません。

同窓の横断線各位にはいよいよお集りの時と、およろこ
 び申し上げます。
 さて今回の母校復興につき建設資金を御願いいたしました
 と、各位の熱烈な母校愛によりまして別面掲載のよう
 多数の会員から多額の御寄附をいただき、全く感謝の至りで
 あります。去る三月一日、復興工式を挙りましたが、
 近代的なあかるさと、豊厚さをもった白壁の校舎は、県内は
 もとより全国的にも高水準の校舎として、後輩に誇り後輩を
 励ますものとして欣快に存じます。
 本会報の発刊に当り謹んで御礼申し上げます。
 昭和三十九年三月二十日
 三重県立津高高等学校同窓会長 藤田 廣
 学 校 長 市川 一郎

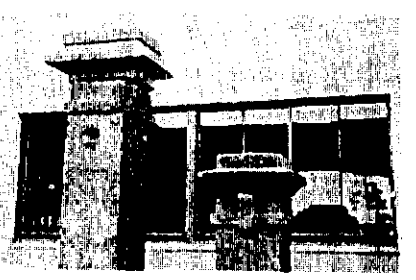
手種の頂戴を認め……」
 を聞く時伊勢の母校をしのんで眼
 潤の熱くなるのを覚えたのであり
 ます。

しかし大学卒業後は漢米のビジ
 ョンが消えて、新しい希望を持っ
 て山林経営を志し、山にくだんた
 ののであります。其の傍ら青年教育
 消防団指導と地方開発に尽すうち
 に時代は昭和へと移り、たまたま
 戦争が勃発したので北支の野に転
 戦、幾多の辛苦をなめて帰国、引
 続いて林業と各方面の社会事業に
 手を付けました。

一方戦後の改革の中で学制が改
 革され新制高校が誕生、津高、津
 高女、津中三者の関係にも幾多の
 迂余曲折があったのであります。其
 の責任を皆さんの現めによって一時
 私がお預りして皆様の御指導御環
 う学生の心のよさがともなればと
 切に会報の発展を祈ります。



資料室(同窓会事務局)



支間に立てられた 陳川の旧門柱

動を助けたのでした。

此の痛足の大なる時期に彼の
 大火で母校は焼けてしまったので
 人々は悲愴にくれました。併し建
 物は焼失しても歴史と伝統は永遠
 に失せないものであります。

茲に於て教育の業は一日もゆる
 かせに出来ないのを感じ、当局並
 に会員一同決然起って復興に乗り
 出したのであります。其の皆さま
 の熱烈なる母校愛が結実して、
 此処に名門津高が新築落成の喜び
 を迎える事になったのであります。
 総工費一億二千万円、ほとんどで
 きたのは鉄筋三階建て本校舎、
 管理舎、用務員室の三むねであり

喜びと感謝

生徒会長

内田 康雄

今、私達の前に、すばらしく
 立派な校舎が建っているが、この
 校舎が完成するまでには、こんな
 ことがあったのかと、私達はふと
 ふりかえって見ることもある。

忘れもせぬ一昨年の12月3日の
 朝、津高が火事だと、聞いて、駭
 け付けて見ると、もう本館と二号
 館が焼け落ち、焼け跡を、先生、
 生徒等がせせせと、片付けていた、
 その翌日から、体育館の改造工
 事、パイプハウスの工事が始まっ
 た。

冬休みが終わると、かなり焼け跡
 は、きれいに、片付けられ復興工
 事は着々と進められていたが、突
 然先生が心労のために入院された
 と聞いて私達は、非常に驚かされ
 たが、その後先生が学校に來られ
 た時はほんとうに、うれしいかつ
 た。

昨春になると、火災前の本館の
 外観を思い出すのが、難かしくな
 り、新入生は体育館で授業を受け
 ることになった。
 ブルドーザーやクレーンカー
 の工事を休み時間などに見に行き
 コンクリートの土台が、こわれる
 と、むじまきに手をたいて、悔
 こんだ、ものだった。

夏休みも近づくと、工事の騒音
 と地響きとで、よく授業が中断さ
 れたものだった。
 秋になると、工事の騒音も、た

ます。

此の莫大なる資金の多くは会員
 の皆さまの熱い母校愛と教育愛の
 結晶でありまして、ゆめおろそか
 に出来ないものであります。

私共は此の愛情に対して深く感
 謝すると共に此の学園で次々と学
 ぶ若人が乾いた海綿のように、出
 来るだけたっぷりお水を身に吸
 いこませて、学校教育本来の目的
 が達成する事を祈るのであります。
 そして此の校舎から多くの人材
 が輩出することは、誠心した趣旨
 にそつものであり、寄贈された人
 人にむくいる事になるのでありま
 す。



いしてしなくなり、本館はある程
 度、形をとのえて来た。

運動会で、私達が整列した時は
 また工事中であったが、まるで完
 成された校舎のように、見えたの
 も、いい思い出である。
 今、完成された校舎を見ると、
 そのすばらしさが、前校舎の位置
 や外観を思い出させないほどで、
 あのいまわしい火災の思い出も跡
 かたもなく消えて了った。

先輩の方々の処へ寄付の依頼書
 をくばりにいったこともあったが、
 それも今では遠い思い出となった
 この新校舎で私達は今後授業、
 クラブ活動、運動会の準備ができ
 るのだ。事務所の前で授業料を払
 うために、混雑するのも、授業に
 遅れそうになり、階段を駆け登る
 のも、もうすぐだろう。

私達は、この校舎に、非常な喜
 と感謝の気持ちを抱いている。

母校を助れ、工事現場に到る毎
 に、古めかしい門柱を見て過去を
 しのび、将来を想うて去るごしの
 ひないものがあります。時勢も、
 この竣工を祝して、同窓会員持参
 参列して

竣工式に参列して

生徒会副会長

佐藤 文恵

昭和三十七年十二月二日。その
 日は、我々津高生にとって決して
 忘れる事のできない思い出の日でし
 た。明日からの教室はどこになる
 のか、授業はどうなるのかと心配
 し、進学を真近に控えていた当時
 の三年生は、進学資料の焼失に茫
 然となったりもしました。

その日から、あの明るい立派な
 体育館は無難に聞ききられて暗い
 十の教室と化し、雨の日、特に講
 座数の多い体育の時間は授業が不
 可能に近い状態となってしまいま
 した。一台の古いオルガンで音楽
 の授業が行われ、手持ちの小さな
 スピーカーをたよりに生徒会が
 開かれたりもしました。それでは
 お昼の時間になると、いつも流れ
 ていたレコード音楽に、「も」とま
 しな放送はできないものか」とさ
 んさん懇口を言われていたあの校
 内放送でさえ、今となってはなつ
 かしいもの一つともなりました。

今から思えば、悪夢のようにさ
 え思われる日々、それらの苦しい
 日々の積み重ねのちに私達は、
 今日、三月一日というすばらしい
 日を迎えたのです。私達が待ち続
 けた記念すべき、この竣工式の日
 を。

式はあのなつかしい第一体育館
 で挙げられました。中央には高く、
 国旗が掲げられ、壇上の両脇には、
 色とりどりの美しい生花が飾られ

た式場には、八百の椅子が整然と
 並べられていました。その式場に
 足を踏み込んだとき、はじめて、
 津高は立ち直ったのだという実感
 が私達の胸にあふれて来ました。
 あの暗かった十の教室が今は光に
 みちみちた体育館として私の前に
 再びその姿を現わしたのです。こ
 れ程大きな喜びが、私達津高生に
 とつてあり得ることでしょうか。
 定期の午前十時を少し過ぎて、
 約三百名の来賓の方々も揃い、式
 は君が代斉唱をもって、はじめら
 れました。まず工事報告から始ま
 り、ついで教育委員長式辞、工
 事関係者や前PTA会長のの方々へ
 の感謝状贈呈ののち三階農知事、
 三階農会代表、津市長、高等学
 校長代表、卒業生代表の方々から
 ぞくぞくと祝辞をいたさまうた。
 ついで学校側からは校長先生、
 PTA会長、生徒代表が交互に立
 ちて感謝の言葉をのべ、一時間あま
 りをへて、式は校歌合唱をもって
 閉ざされたのです。

そしてこの竣工式に参列して、
 私達は誰しもあらためてこの一年
 を振り返ってみたいことでした。
 今私達はあの災禍が一つの貴重
 な経験となって、津高を前進させ
 てきた事を信じたいと思えます。
 それと共に今日、この日から、私
 達は津高の外見の飛躍に対して
 その内面をも充実させるように、
 もう一歩も二歩も前進しなければ
 ならないことを痛感せざるを得ま
 せん。総工費一億二千万円、鉄筋
 三階建てという、立派な校舎に負
 けない津高生になる事が、この建
 築に關して、努力して下さった方
 々への唯一の報いである事を固く
 信じ、お誓いしたいと思います。
 最後に、津高の再建に關して、
 御協力下さった多くの方々に、心
 からお礼を申し上げます。



竣工式の受付風景

陳川のあけくれ

寺田重雄 (大6)



明治も遠くなく、私が当時の中に入学したのは明治四十五年の四月で、母校の教員になつたのは止すに思ふ。

さて、旧陳川の校舎は御承知のようにE型に配置せられ、上・中の先突は生物室、物理、化学の特別教室になつて、下の先端は講堂になつていた。講堂南面には二階建ての寄宿舎が二棟あって、その西端から北に剣道場、柔道場、食堂、吹奏場が連つていた。E型の中は北に三教室分位延びて宿直室、玄関、音楽書道の教室になつていて、北側道路に沿つて、銃器庫が一棟あった。その西に全生徒を取出す

三年四月である

陳川当時の校舎は明治二十年頃に建築されたもので、今にして思へば明治維新にはじまる文明開化への理想が日本の國運として如何

出の想いの舎の学び

源遠く
出で来たる
古き流れの
ここに合い
又新しき
流れなす
吾等の歴史
かがやけり

— 津高校長の
一語より —



竹島先生と柳山校舎

に強かつたかを表現していたと思ふ。例えは明治十二年創立のとき

試験をし、開校式には明治天皇が臨御され生徒の講義を觀覽に遣したといふ、熱の入れたものであった。戦後諸制度は変革し、学校が増加したといへ、当局者の教育に対する熱情には雲泥の差があったと思ふ。

さて、旧陳川の校舎は御承知のようにE型に配置せられ、上・中の先突は生物室、物理、化学の特別教室になつて、下の先端は講堂になつていた。講堂南面には二階建ての寄宿舎が二棟あって、その西端から北に剣道場、柔道場、食堂、吹奏場が連つていた。E型の中は北に三教室分位延びて宿直室、玄関、音楽書道の教室になつていて、北側道路に沿つて、銃器庫が一棟あった。その西に全生徒を取出す

三重桜の歩み



竹島とよ(明43)

三重桜によって象徴される私共の母校が生れたのは今から六十四年前の明治三十四年四月であった。県下で唯一の公立高女なので名も「三原県立高女学校」とよばれ、その二十五日に始業式を挙行し、その後この日が開校記念日と定められた。校舎は今の津市役所のある所にあった私立津女学校がつかわれたといふ。

翌三十五年一月には三重の桜花の校章が制定せられ三月廿九日には第一回の卒業式が行われた。柳山に校舎が落成したのは三十六年六月末で、授業を開始しようとした七月九日、偶々通りすぎた台風のために校舎の一部が傾斜したので止むなく旧県金鑑事堂を間仕切して十月まで授業が行われたといふ。

十二節もある校歌が制定せられ

朝な夕な思ひ出の鐘



園には数本の桜があり、西側に大きな紅葉の木があつて秋には共に錦して美しかった。東の道路に沿つて生物教室から少し離れて、木造洋風二階建白壁の校長官舎があつた。明治十九年米国人教師を招聘したときの住居に当てたため、外国人がいなくなつてから歴代校長住宅になつた。東方から眺めた校舎全体の光景は、このように洋風と和風の混合で、重厚な柱であつたが、全体として調和が欠けていたように思えた。

今にして思うと和魂洋才の当時の理想を学校建築に表したものであるいは自ずから表われたのである。各棟の間は中庭になつていて、色々の古木が植えてあつた。校舎の北側は道路をへだてて安濃川の土堤になり、国鉄のガードを経て塔世徳西詰の日赤支部の建物との間、すゝと竹藪の生い繁るジャンケルで、御山荘橋は玉置町から公園に通じる小橋にかけられたいかにもその名にふさわしい小橋であつた。

さらに西北の一隅には駐在所が



陳川校の今容

あり、その前に老女が首むきよやかな歌子屋があつた。寄宿舎の連中や、腹のよくへる連中がよく厄介をかけたものである。その西には、国魂神社の森があつて、三本松の橋に通じ、北側はこれ又土堤の竹藪地帯であつた。

当時の生徒控室には魂大な大机が置いてあり、一つの机は約十名の生徒たちの共同使用で、總ての持ち物をこゝに置き、毎時間必要な教科書を持って教室へ行くことになつていた。昼食時間は一時間、勿論椅子はなく皆立食で、小使が手桶に茶を入れたのを学年に二つ位ずつもつて来たが、茶を飲

動服を着用することになり、仕立は上級生がした。海老茶色の木綿の生地、上は水兵服型、下はまち入りでひだのある袴袴であつた。四十二年には理科教室が竣工し、四十三年三月には作法室、家事実習室が出来上つた。これ迄卒業の際には校庭に記念の植樹をしてきたが、この年卒業した私達は新しく移築された招魂社(今の三重神社)の境内に杉苗をうえた。今社殿を取りまいて事々々そびえているそれを見るときをなつかしく思い出す。皇太子殿下が学校に白臨になったのは十一月の十三日、英語、国語、体操などの授業を御覽になり校史の一頁を飾つたものである。

たのもこの十月で、作詞は鳥居枕作曲は多梅である。三十七年には芸芸専修科の補習科がおかれ、記録による授業料が五十銭から八十銭に値上げせられていた。三十九年、私はここに入学したが、広い綺麗な校舎、しとやかでお上品な上級生に眼をばちばちさせたことだつた。

この頃の校舎の周辺は殆ど畑で一群ある柳山の民家ともズートへだたつて孤立していた。教室の窓から覗くと、東は麦と菜の花の織りなすきれいな布のような畑が阿瀬浦の松原まで続き、南には結城の森が黒々と見え、千歳山、半田、神戸の丘陵地帯が西へつづいて長谷山、軽ヶ崎などは林まで見渡され、四季折々の美しい風情は勉強に疲れた頭をいやしてくれた。県下全域から集つてくる生徒の中には方言まるだしで意味のとらえにくいものもあつた。皆、学校の規

この秋に校長が清水誠吾先生とかわられた。当時日露戦争の後で、国が貧乏だからとウソと質素儉約の教育を授けられた。これらも水く校風として残つた一つである。

先生は特に生徒の体位向上に意をそそがれ、体育方面がやましまつた。夏になると運動場に設けられた日よけも、冬は屋内体操場の大火鉢に入つた火も、何時の間にか姿を消し足も軽ヶ崎にまで登るようになった。しかし四十一年の最初の登山の時は警官の補助つきだったといふ。

四十一年からは三、四年は体操の時間に全国でもまだ珍らしい運

竹島先生と柳山校舎

むことは殆んどなかった。
暮さきから夏にかけては、天気
さえ良ければ、河畔のジャングル
で弁当を食べたものである。従っ
てつい駄菓子屋の厄介にもなるこ
うなわけである。生徒控所の南西
の隅は、生徒監室で、多く体育科
の先生が屯したが、四面ガラス張
りで、監視しているのか、されて
いるのか、わからないようであっ
た。

東の正門の前に文房具屋があっ
た。その南敷間を歩いて運動場が
あり、当時は広いと思っただが、千
坪位で、東は緑路にさえぎられ、
百米のコースがぎりぎりであった
ことを覚えておいて。

大正十三年私が教師として赴任
した当時も色々内部規則は改正さ
れていたが校舎や周囲の状態は大
体このようであった。昭和九年四
月に至って、現在地に移転し、旧
校舎は津市立公民学校に転用され
ることになった。その間安濃川の
改修も進み、土堤は補強されて県
の官舎が並立し、昔日の面影は何
れも二つ失くなった。さらに昭和二

十一年四月校名が「三重県立津
高等女学校」と改称された、が教
育内容に変わりはなく県下幾多高
女の最高峰として進学に運動に名
をなしたものである。清水校長の
体育熱は益々上り、運動場の拡張
コートの際備に手をくさされ、終
には六十余才の老眼にラケットを
振って生徒を励まされるようにま
でなつた。又「放課後運動」とい
う時間が設けられ毎日阿海海岸ま
で散歩をしたが、脚絆はぎの運動
服姿と共に卒業生には忘れ難い思
い出であろう。富士登山も行われ
たがこれは八年一回だけで中止さ
れた。

十二年九月一日関東地方に起っ
た大震災の時は女学校生徒とし
てあらゆる救済の手伝いをしたが
特筆すべきは東当局の依頼をうけ
て千三百枚の衣類の調製を三日で
やったことである。

控え目で所謂「女らしい」とい
われていた当時の女性等も折から

十年八月の焼夷攻撃によって、こ
の明治の文明開化の國策遂行を表
現し、幾多の俊英を生んだ、想い
の偉大さを痛感する次第である。

陳川から刑部へ

辻 嘉一 (昭10)



歴史と伝統を誇る古河の旧校舎
が刑部に移転するという騒動が聞
かれるようになったのは、確か私
共が二年生の終り頃だったかと記
憶します。今に全国一という立派
な校舎が建つたのだから、皆よく勉
強に、運動に励むようにと、耳に
タコが出来た程先生から聞かされ
「大津中建設」が学校のスローガ
ンになり、運動各部選手の推戴式
の時など、このスローガンは必ず
口から出たものでした。

その後建築も倍音高らかに愈々
軌道に乗り、四年生の中頃より体
操、教練の時間が多く「作業」に
振替えられ、旧校舎からの植木の
運搬やモッコ担ぎ等私共四年生が

出の多い校舎は一瞬にして壊滅し
て了った。今更乍ら五十年の歳月
の偉大さを痛感する次第である。

先頭に立ってよく安濃館前を住き
来したものでした。
昭和九年四月いよいよ新校舎で
授業を受けることになりました。
教室は木の香も新しく、漸く整
ったもの、運動場はタツツ広い
ばかりでデコボコ甚しく又経年
下し風の下の教練は特につらく又
雨天日には水溜りが出来るため、
矢張り作業の時間が多くなり、豊
地作業に努力奉仕をしたものです。
校友会雑誌やアルバムも焼失し
ましたので記憶はおぼろげですが、
購買部の新設と生徒幹部制が旧校
舎時代とは変わった試みだったと
思います。生徒幹部制は五年生が選
番で腕章を掛け、下級生の掃除、
校内巡視等校内の規律確立に一役
買ったもので、相当の成績を取め

たものです。当時としては近代
な校舎で他県からの參觀者も相当
多かつたと思います。

その頃漸く豊宮急行(現在の近
鉄)の新駅が完成しましたので
松阪方面からの通学生は大半が汽
車から電車に乗り、五間道路(当
時は道路の両側は人家なく田圃は
かり)は朝夕は白練の学生で賑
わいしましたが、昼間は全くさびし
い道路で、新町の今日の隆盛はと
ても想像出来なかつたと思います。
かくて一ヶ年も東の間に過ぎ、
昭和十年三月、栄ある新校舎第一
回卒業生として、同窓会寄附にか
かる大講堂で卒業式をあげ、県下

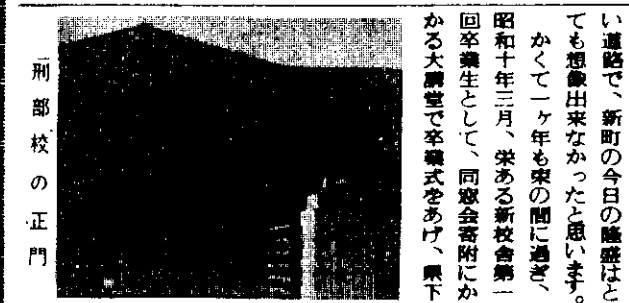
至つて足された。十二年四月古川
校長退任、今度も山中から高畑淺
次郎先生が兼任された。上海事変
から引きつゞき日華兩國の間に戦
争が激くなったので、学校も自然戦
時態勢に変じて行つた。高畑校長
は「張りだ、気品だ、果立だ」の
標語を示して生徒の自覚を促し統
後女性のあり方をたえず指導され
た。勤労奉仕、団体訓練、防空防
火訓練などが頻りに行われ、はて
は男子の様に部隊訓練まで初めら
れて、教室授業は段々少なくなつ
てきた。モンペ姿に防空頭巾を携え
て登校するようになった十七年十
二月深い印象を残して高畑校長は
岡山に去られ、翌十八年一月杉野
芳郎先生を迎えた。この年四月二
年制の高等科が設置せられ定員が
千名をこえた。太平洋戦争は愈愈
熾烈に、物資は益々欠乏、急速に
防空訓練などの作業がふえてき、
運動場はほりおされて芋畑、南瓜
畑と化した。十九年四月には折角
落成した新教室に落つく間なく工
働員の命令をうけて高等科及四
五年の全員は三重工業に出動した。
二十年の新年は工場で迎えた三月
の卒業式は記念写真を撮るすべも

大会はじめ、各種競技大会で獲得
した九本の優勝旗を園土産にして
集立ったのです。

私は入学が昭和五年で丁度五
十周年記念行事が行われた直後で
あり、卒業が十年三月のため、その
年十一月に挙行された新校舎落成
式の盛事には参加出来ず残念でし
たが、五年生として中学生生活最
後の一年間を新校舎で学んだこと
よなき喜びでした。

私共の時代は、外にあっては満
洲事変、滿洲帝国、國際連盟脱退
と所謂「非常時」であり、内にあ
っては凶作による東北農村の疲弊
社会不安、不況時代の連続でした
が、その中であって、当時として
は全国的に誇るに足るデラックス
な新校舎建築という大事業を完遂
された有畑校長はじめ、関係者の
政治力を高く評価したいと思いま
す。そして月移り、年は流れてこ
こに三十年、その刑部の地に、今
度は鉄筋三階建ての新校舎の竣工を
迎えたことにまことに感慨無量な
るものがあります。

終戦直後は混乱の波が学校にも
おしよせ生活指導などになかなか
の困難があったが、次第に落つき
をとりもどすと共に、解放された
女性としての自覚も持ち初め、新
制高校移行の準備も整つてきた。
愈々これからの二十三年四月
末、突如古調軍から校舎立退きを
命ぜられ生徒の希望もあって、久
居の旧兵舎に津中と同居すること
になった。移転の五月十四日、幾十
台ものトラックに校具を積んで運
び去つた後のガラリとした校舎内
に立った時情別の情景がたく、
溢れくる涙はためようもなかつた。
一同校歌を歌って解散した。かく
て六千の良妻賢母を世に送り、得
米も期待されたわが母校はここに
四十六年の校史を閉じたのである。



旧校友会誌 津中県立高女を
お持ちの方は津高資料室へ御
寄附下さい。

刑部校の正門

おしよせ生活指導などになかなか
の困難があったが、次第に落つき
をとりもどすと共に、解放された
女性としての自覚も持ち初め、新
制高校移行の準備も整つてきた。
愈々これからの二十三年四月
末、突如古調軍から校舎立退きを
命ぜられ生徒の希望もあって、久
居の旧兵舎に津中と同居すること
になった。移転の五月十四日、幾十
台ものトラックに校具を積んで運
び去つた後のガラリとした校舎内
に立った時情別の情景がたく、
溢れくる涙はためようもなかつた。
一同校歌を歌って解散した。かく
て六千の良妻賢母を世に送り、得
米も期待されたわが母校はここに
四十六年の校史を閉じたのである。

戦災—久居—東西両校舎時代

杉浦茂夫 (昭25)



二津二

私が旧制津中
学校へ入学した
のは、昭和十九
年四月、戦火い
よいよ激烈の度
を加えてきた頃
であった。授業
時間は日一日と
減って、農村へ
稲刈などの勤勞
仕事に出かける
ことが多くなっ
ていった。この
家も男はお年寄
ばかりで、昼飯
を出して下さる
白米のおにぎり
の味をかみしめ
たものである。そして津中の武道橋には、飛行機の部品とか称するジュラルミン製品がうすく積まれるようになった。これが賑かったのか、昭和二十年七月

月廿八日の大空襲の際、近隣の焼かれずすんだのに、津中の校舎だけが全焼してしまつた。生徒控所の鉄骨が、赤ちやけて、無残に横たわつていた姿がいまも目に浮かぶ。それからしばらくは、掃除整理作業が続いた。屋根のスレート拾いなど、今のようは一輪車など便利なものがない時代のことだから少しづつ手に持たせては、歩いて捨てに行くという非能率的な作業の連続にはうんざりさせられたものである。

疎開しておいた軍事教練用の三八銃を、いよいよお国のために立てようよ、久居の連隊へかづいでいったのが丁度八月十五日。片田村かどこかの役場で終戦の詔勅

を聞いたのだが、ラジオの雑音が多くて何だかはっきりしない。どうも取けたらしいというはくせんとした話である。かくて敗戦、二学期からは新町小学校の校舎を借りて授業が行われることになった。小学生の机や腰掛で中学生が勉強するのだから何ともはや、見られた図ではない。この時代の特筆すべき出来事は、ヤキさん降臨の図である。新町小学校の二階の教室で通称ヤキ(林義明)先生が美術の授業中、生徒が作品を鑑賞するためにどつと教壇の所へ集まつていった時、床が抜け落ちて、ヤキ先生を先頭に、多数の生徒が階下で授業中の教室へ墜落したのである。幸いに大した怪我人もなくすんだのであるが、この時代の大事件として暫らくの間話題を賑わしたのである。

その翌年度からは、久居の兵舎を改造して教室にすることにかなり時々改造作業に行つた。困らされたのは盛である。長い間血を吸わせてもらつていた兵隊さんが居なくなつて榮養失調になつた連中が一枚床板をはがすと、ソロソロ動いている。跳ぶ力がないので、這つていのである。ゲートルの間へ、そんなのが入り込んできて、作業よりも蚤取りの方が大仕事であつた。引越しも、トラックなど利用できる時代では無いから、二人ずつが組になつて机腰掛け一組を、久居までかついで行つた。そうしてこの慶まじい校舎で、いよいよ授業が始まつた。下ばかりのままで、教室はほこりだらけ、雨が降ると教室の中まで泥んこになり、先生方は傘をさして授業に來られる。そして間仕切りが天井まで届いていないので、隣の教室の音がまる聞こえ、声の大きい先生が隣の教室へ來られると、そ

の先生の声の方がよく聞えたりた。カンナもろくにかかつてななな板の上に黒く塗つただけの黒板が白く一度書いて消すと、黒板が白く消つて後ろの席からは字が見えにくくなつてしまふ。まことに殺風景な校舎であつたが、桜の季節だけは美しい色彩に囲まれた。

その翌年には男女共学が実施されて、県立女学校と合併、女生生員に主力が注がれ、国家百年のとも言うべき人を作るといふことが追隨する一般の傾向が今日右世相となつて現れたものではなかつたかと思はれる。その結果は自己主張するのには急余りに自己を讓つて手楽的になり、理論にはし過ぎて生活指導の最も大切な正しい実行を疎かにする有様となつた。

この風潮は本校生徒の行動のにも確かにあらわれている。し

母校だより

一人の和が何事も成就するにも最も必要だといはる言葉ながら、こんど程そのことを痛切に感ぜさせられた事はありません。火災から竣工式までの十五ヶ月間、一瞬の間に過ぎた感じがふり返つて見ると実に色々な出来事があつてそれ等が皆かつてない新しい体験の連続でありました。そしてこの一つ一つにも人の和がその解決の原動力となつていた事に気付くのであります。

校長を中心にいゆる学校の非常態制を組み「授業時間の確保」「学力の充実」を廣げるしとしながらも、その傍ら校舎復興の大仕事に全職員が結束しました。この波は忽ちPTAに伝わり、同窓会に拡がり、やがては県当局に及び、その年の暮の県議会には新校舎建築が議決されました。そして、募金の運動も関係市町村関係法人とあらゆる方面にまでくり拡げられました。

その結果は三千数百万円の巨額に達し、待望の新校舎も立派に竣工しました。誠に有難い極みであります。

この間、生徒もよく学校に和してくれました。昨春の卒業生の名実共に県下随一の進学成績は、とてもするどく仕上げそうになる私共職員を欣ばせ、はげましてくれました。「橋を転じて福となす」の氣持は校内に充ち満ちました。そしてこの二月二十四日、折からの雪をうけて生徒たちは引こしの机を担ぎ、三月一日には、心から先輩の皆様方を迎え、竣工式を挙げる事が出来たのでした。

そんな学校の近況を卒業生各位にもお伝えしよう各校務の主任に執筆を依頼しました。諸兄弟が書いて本校に学ばれた当時と較べて、色々な面で学校も変つてきていることと思ひますが而も尚かわらざるもののあることを御理解下さいまして今後共御指導御支援下さることを切望致します。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(土保 賢)

また、本校は県下でも有数の制事項の少ない自由な学校である。県下の生活指導部の会合でも自由の実態説明にはいつも本名が名指しを受けて説明を求めらるほどである。それでありながら生徒は良識ある学校生活を行つているし、又生徒会もよく自覚めいている。正しい意味での協力をしている点、実に他校から羨しがら

三年が卒業して新入生を迎えるときにあたる。秋の遠足には一学年で十四台のバスを連ねてゆく壮观である。さすがに広い運動場ではその目立たぬが、体育館に入れば、ぎっしり一杯である。

男女の比率は、だいたい一対一の男子ばかり、女子ばかりの生活を送られた方々には隔世の感もあるうし、昭和二十七年頃女子の数を聞いたのだが、ラジオの雑音が多くて何だかはっきりしない。どうも取けたらしいというはくせんとした話である。

かくて敗戦、二学期からは新町小学校の校舎を借りて授業が行われることになった。小学生の机や腰掛で中学生が勉強するのだから何ともはや、見られた図ではない。この時代の特筆すべき出来事は、ヤキさん降臨の図である。新町小学校の二階の教室で通称ヤキ(林義明)先生が美術の授業中、生徒が作品を鑑賞するためにどつと教壇の所へ集まつていった時、床が抜け落ちて、ヤキ先生を先頭に、多数の生徒が階下で授業中の教室へ墜落したのである。幸いに大した怪我人もなくすんだのであるが、この時代の大事件として暫らくの間話題を賑わしたのである。

その翌年度からは、久居の兵舎を改造して教室にすることにかなり時々改造作業に行つた。困らされたのは盛である。長い間血を吸わせてもらつていた兵隊さんが居なくなつて榮養失調になつた連中が一枚床板をはがすと、ソロソロ動いている。跳ぶ力がないので、這つていのである。ゲートルの間へ、そんなのが入り込んできて、作業よりも蚤取りの方が大仕事であつた。引越しも、トラックなど利用できる時代では無いから、二人ずつが組になつて机腰掛け一組を、久居までかついで行つた。そうしてこの慶まじい校舎で、いよいよ授業が始まつた。下ばかりのままで、教室はほこりだらけ、雨が降ると教室の中まで泥んこになり、先生方は傘をさして授業に來られる。そして間仕切りが天井まで届いていないので、隣の教室の音がまる聞こえ、声の大きい先生が隣の教室へ來られると、そ

の先生の声の方がよく聞えたりた。カンナもろくにかかつてななな板の上に黒く塗つただけの黒板が白く一度書いて消すと、黒板が白く消つて後ろの席からは字が見えにくくなつてしまふ。まことに殺風景な校舎であつたが、桜の季節だけは美しい色彩に囲まれた。

その翌年には男女共学が実施されて、県立女学校と合併、女生生員に主力が注がれ、国家百年のとも言うべき人を作るといふことが追隨する一般の傾向が今日右世相となつて現れたものではなかつたかと思はれる。その結果は自己主張するのには急余りに自己を讓つて手楽的になり、理論にはし過ぎて生活指導の最も大切な正しい実行を疎かにする有様となつた。

この風潮は本校生徒の行動のにも確かにあらわれている。し

引越し風景



教務関係

現在生徒数は一七七八名

三年が卒業して新入生を迎えるときにあたる。秋の遠足には一学年で十四台のバスを連ねてゆく壮观である。さすがに広い運動場ではその目立たぬが、体育館に入れば、ぎっしり一杯である。

が男子をはるかに上まわつた頃の卒業生には、また別の意味で時代の流れを痛感されることであらう。生徒の数に比して先生の数も多く、現在八十余名。生徒も先生の顔を覚えるのに大変だろうが、先生も苦勞する。学年履修は薄らぎクラス単位に事は進み、卒業後の親睦もクラス会が中心となる。

生徒の出身地を見ると、県下一円から秀才を養つて得た津中、県下時代は遠い昔のこと、今は中学区制と称し、津市を中心に、龜山

を改造して教室にすることにかなり時々改造作業に行つた。困らされたのは盛である。長い間血を吸わせてもらつていた兵隊さんが居なくなつて榮養失調になつた連中が一枚床板をはがすと、ソロソロ動いている。跳ぶ力がないので、這つていのである。ゲートルの間へ、そんなのが入り込んできて、作業よりも蚤取りの方が大仕事であつた。引越しも、トラックなど利用できる時代では無いから、二人ずつが組になつて机腰掛け一組を、久居までかついで行つた。そうしてこの慶まじい校舎で、いよいよ授業が始まつた。下ばかりのままで、教室はほこりだらけ、雨が降ると教室の中まで泥んこになり、先生方は傘をさして授業に來られる。そして間仕切りが天井まで届いていないので、隣の教室の音がまる聞こえ、声の大きい先生が隣の教室へ來られると、そ

生活指導

(米本 宏)

力が豊かになれば、世人の非行は減るのが普通であるのに、現状は益々増加しているのは歎かわしい次第である。それは戦時中までの全体主義の反動として個人主義の強調、不言実行主義の反動として徒らに理論に促されての自由主義の盛行、殊に国家の建て直しに目前の功利がはつきり分る経済力回

るほどである。それでありながら生徒は良識ある学校生活を行つているし、又生徒会もよく自覚めいている。正しい意味での協力をしている点、実に他校から羨しがら



全職員が集る連絡会

けれどもよく手入れの行きとよい
た、感じの良い校舎であった。廊
下の幅が狭いのと、運動場の狭い
のが、男子生徒には物足りない感
じはしたが、この校舎で高校生活
最後の一年を過ごすことの出来たの
は、幸福であった。

「あなた西校舎、東校舎か？」
これは十四年前に合格票を受け
とったわたしたちが、友だちの顔
を見てとすねあつて喜んだり悲
しんだりしたことばでした。
西校舎地区として入学したわた
したちは、入学式翌日から修成小



東西合同、津高の礎成る

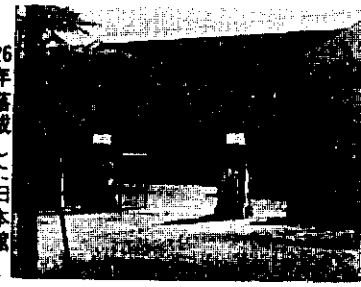
吉沢昭子 (昭28)
(旧姓園田)

学校の一部を教室として学習する
ことになり、上級生のない学校
で六つのクラスがひとつの家庭の
ようにかたまつて仲よく手を結ん
だものでした。
分校の八人の先生がまわってく
ださった授業や、本校からかけつ
けて汗をふきふき教えてくださっ
た英語のリーダーの時間の思い出
とともに、横を通る汽車にゆり動

かされながら学習をしたり、雨も
りよけて机を並べたこと、本校
舎での行事に参加するために、日
の照りつける田んぼ運や、風の吹
き飛れる岩田川畔を十五分も歩い
たことなど、今は忘れられること
できない思い出のひとつとなってし
まいました。

昭和二十六年の四月、東校舎が
西校舎に合同して、刑部の急造の
校舎で授業をはじめたときも、ま
だ一年生だけは柳山に残されてい
ましたので、三年生と二年生だけ
というかたわな高校でしたが、特
別教室のある本校舎で学べる喜び
が学習意欲をいっそうわきたてて
くれました。そしてその年の十二
月、あの一昨年の火災で姿を消し
た本館が落成し、わたしたちはベ
ンキの香に胸おどらせて生物室、
図書室、図書室などのドアをそっ
とあけてのぞきながら歩きまわっ
たものでした。

本館を優先的に使うことを許さ
れ、ホームルームの教室も二階に
なつた高校での最後の年は、うす
青色の明かり、美しい校舎で学
校生活を楽しみ、すべてにみがき
をかけたものでした。
そして二十八年三月、「眼を放
つ布引は……」と、新しくできた
校歌を歌つての卒業式も新町小学
校の講堂で行なわれ、あの校舎や
友だちといついても別れを惜
んだのでした。



26年落成した旧本館

入学願書の
四学部へ併願する者も多いので、
出願願書数と出願者数とは一致し
ません。出願願書は六四四通。同
志社(九〇通、六九名)、早大(七
九通、五二名)、立命館(六四通、
五四名)、明治(四三三通、三三三名)、
中央大(三八通、二八名)、関西学
院(三六通、二七名)、関西大(二
七通、二三名)、法政大(二七通、
二二名)、慶応大(三三三通、二〇名)
等。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

「進学指導」
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

出願々書の学部別統計表

国立	公立	私立	(計)
21	24	96	161
2	0	12	14
10	0	110	120
9	30	255	321
54	88	116	270
27	14	25	66
3	6	20	39
1	2	16	32
95	63	11	170
0	0	4	13
5	10	0	27

(短大・各種学校を除く)

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

就職指導
は就職指導と
してのいろいろの問題がある。た
とえば就職指導の必要上、会社の
内容を正しく把握しなければなら
ないが、それにはどうしたらよい
か。就職希望生に対して、就職す
るまでに、どの程度の知識・常識・
技能を身につけておいたらよい
か。生徒の選ぶ会社ならびにそ
の職種と、個々の生徒の適性との
一致点をどう発見し、どう実現さ
せてゆくべきか。例年卒業見込生
徒の八十乃至八十五%の進学希望
生徒の中で少数の就職希望生徒
に、信念とまでは言わないまでも、
何の引け目も感じさせないで各自
の路を進ませるには、どう対処し
ていったらよいかな。際限もな
く幾多の問題がまわつりついてい
て、事はけつしてなまやさしくは
ないのであるが、けつきよくのと
ころ、学校側としては求人側と求
職側との間に立って、なるべく求
職者である生徒の希望・要求に合
致した官庁・会社に首尾よく就職
できるような、できるだけの助力・
助言をしてゆくということに落ち
つくのではないかと思う。

募金にあげくれた一年

国府直美(昭10)

復興募金一年三ヶ月、その間の幹事各位の御尽力、会員各位の御協力に対し全く感謝の言葉もありません。

竣工式を行うことが出来ることになりました。その経過をふりかえってみると全く感無量です。焼跡に余燼くすぶる十二月九日最初の幹事会が開かれ、四千万円を目標とする募金運動が決議され復興資金事務局を設け、同窓会の重鎮、寺田重雄氏(陳川、大6)を局長に、長瀬寛子氏(三重桜、昭18)を専任事務員に迎え、本格的活動に入りました。

第一回の趣意書発送は一万四千通にのびりましたが、同窓会名簿原簿の焼失と、生徒托送の手違いなどで、種々不行屈みがあり、御迷惑をおかけしたことは申訳ありません。

その後数回にわたり幹事会を開き、陳川、三重桜は各年度幹事に、津高は関係教職員を割当て、幹事と共に募金の推進をお願いしました。

募金額は次の表の如く時により伸びに緩急の差はありましたが、先ず順調に上昇して参りました。その間、二三印象に残ったことを述べてみようと思ひます。

三八年一月末	二、三七一、一一七
二月末	四、五八一、三五三
三	八、六二七、九三九
四	一〇、三二七、五〇〇
五	一二、七四七、三五二
六	一六、九一六、七〇〇
七	一八、八〇〇、〇八〇
八	一九、八八二、七六二
九	二二、〇五六、〇五六
十	二二、七六八、四八四
十一	二二、八二六、八三三
十二	二二、三二一、二〇六
三九年一月末	二九、〇八一、七〇六
二	三〇、六六〇、五七三

募金スタッフ 阿部副会長と



まず別項統計表にあらわれている如く、各種法人、自治体から多大の御協力をいただき、今更ながら地域の方々の本校によせられた

御厚意に対し、今後の決意を新たにすることでした。次に、痛感させられたのは三重桜の団結の強さでありました。多くが主婦の方々のことですから、金額はさくやかではあります。が、五月頃の三重桜の応募者数は陳川の倍もありました。

要に、これは当時新聞紙上にも出たことですが、海外からの送金のあったこと。本校在職教員、松嶋弥氏(陳川昭8)との個人的な友誼によるものではあります。が、アメリカから五四三ドルの送金をうけ、国境を超えた善意に深い感銘をうけました。

募金の伸長状況をみると、平常の活動の盛んな年次がどうして早く伸びて行きます。(特に応募人員数に於て)この事は同窓会全体として今後の運営に当り、充分参考にし、不断の連絡を計画すべきだと考えます。

忘れられないのは、秋枯れに肝を冷たした事。八月九月十月は全く伸びが止り、事務局には連日閉枯鳥が鳴き、この分ではどうなることかと先が案せられ、残響絶しい時期に寒々と木枯しの音を耳にしたことでした。

そこで、これではならぬと第二回の趣意書発送が決議され、十一月中旬に六千通程発送しました。その後の伸びはすさまじく、十二月一杯、事務局は残業に次ぐ残業で、家庭作業までして処理する始末でした。尚この時期には、本校

教職員全員が手分けして、それぞれ分担地域の個別訪問を行い募金勧誘につとめたことを特記せねばなりません。そしていよいよ最後の追込みとなります。本年に入りさすがに件数は減りましたが、竣工式の目的も立ちます。今までのいろいろな御考慮して居られた大口の寄附金が届き、金額の面では依然急上昇を

募金行脚の記

—教員の立場から—

私たち教職員一同が復興資金を、どのように生活し、どのように喘いでいるかということ、そして、それが醸し出している微妙な人間関係の縮りなすあやといつたものが、言いかえれば、人間心理、ないし、人情の機微といった面にも触れることができ、今後の生徒指導の上にも、得難いあるものを得たような気がした。総じて、私のお邪魔した地域、ないし、お宅は、お預けしたお金の多寡などは、別として、いずれも、嫌な癖一つ、されず、一応は、快く招かれて、たとえ、即金で頂けなかった場合も、「本人が帰りましたら、一度、濡と相談して見ましょう。」といった、いすれかといえは色好い雰囲気には入るお答えが多く、勸が適中して、再度、お邪魔するを待っていましたとばかり、頂戴できた所もあった、そして、門前

又終戦後の教育制度の激変のため、陳川から津高へ、三重桜から津高への経過はまことに複雑なものがある、どう整理をしたらよいかの頭を悩ました。

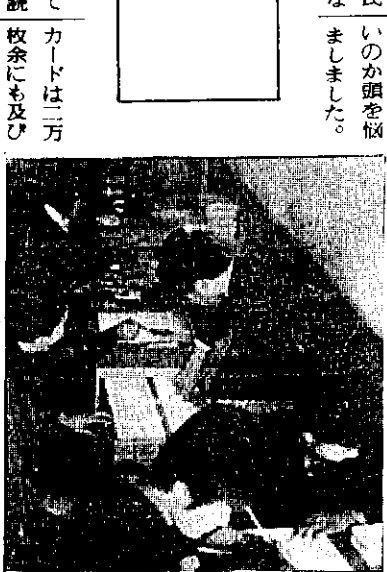
上うれしいものはありません。なご同一の方の住所に関して、別々の方から異った住所をうかがい、確認する余裕もないまゝ判断

所に渡す所までごまごましました。この間会費御一同の御協力を厚く感謝致します。係としては、将来のことも考え、パンチカードを用いることとして、カード記入を行い、又復興

会員名簿が出来るまで

出来るまで

募金のために地区別名簿を作成しましたが、その折もとても困ったのは、前記名簿の発行より約十年を経過しており、その間に市区町村の合併等があり、住所名が一変したため、新町村名に改訂する



アルバイトを使つての名簿編集

カードは二万枚余にも及び次々とお知らせいたく資料によって訂正を加えていき、空白が埋められて、お互いの消息の絆がふえていくことは、係としてこれ以上、今なお現住所不明の方がな

